



国際化推進室ニュースレター No13



目次

- 1. 海外語学・文化研修が無事終了しました … 1
- 2. 留学生と地域との交流の輪が広がっています … 3
- 3. 教員交流が進んでいます … 5
- 4. 国際化加速 GP フォーラムを開催しました … 6
- 5. 交換留学・日本語 TA 帰国報告 … 6
- 6. 2009 年度後期：後期留学生の紹介 … 7
- 7. ホームビジット・ホームステイをお願いしています … 8
- 8. 今後の予定 … 8

1. 海外語学・文化研修が無事終了しました

姉妹大学の中国・曲阜師範大学、韓国・慶南大学校、カナダ・ビショップス大学において、それぞれ約3週間にわたり海外語学・文化研修が行われました。

| | 期間 | 参加人数 | 研修場所 |
|------------|---------------|------|-------------------------|
| 中国語学・文化研修 | H21.8.8~9.2 | 8 | 曲阜師範大学 (中国・山東省) |
| 韓国語学・文化研修 | H21.8.9~8.29 | 12 | 慶南大学校 (韓国・馬山市) |
| カナダ語学・文化研修 | H21.8.29~9.21 | 10 | ビショップス大学 (カナダ・ケベック州) |

◆ 中国での語学・文化研修

国際文化学部国際文化学科2年 柳井美紀

中国の語学・文化研修は上海からはじまり、上海の有名なテレビ塔やワイタンを見学しました。上海で1泊し、翌日に山東省にある曲阜師範大学に行き、3週間の研修が始まりました。

大学での大まかなプログラムは、平日の午前中が語学の授業(口語・聴力)、午後は文化の授業、そして休日は近場の名所観光です。文化の授業では、書道、絵画、太極拳、民歌を学びました。また、会話練習として曲阜師範大学の学生との交流もありました。最初はどの授業も先生方の言うことを聞きとることが大変でしたが、先生もできるだけ簡単な単語を使ってくれたこともあり、だんだんと聞き取りもできるようになりました。

休日の観光は三孔と呼ばれる孔子の里を巡ったり、

孟子の里にも行きました。また、世界遺産である泰山にも行きました。授業がない時には大学の周りを散策し、買い物をしたり、カラオケに行ったりもしました。大学内でのプログラムの最後にはスピーチコンテストがあり、みんな中国で感じたことなどをそれぞれ発表しました。大学でのプログラム終了後は北京に行き、天安門や万里の長城などを巡る研修を行いました。

中国で過ごした26日間は、日本とはすごく違う環境で戸惑うこともたくさんありましたが、それと同時にたくさんの刺激を受け、これから中国語や中国について学ぶ原動力になった気がします。



(太極拳)



(書道の授業)

◆ 韓国での語学・文化研修

国際文化学部国際文化学科3年 藤岡侑子

私たち12人は韓国の慶南大学に約3週間の語学・文化研修に行ってきました。平日の午前中は韓国語の授業を受け、午後からは韓国の文化体験をしました。授業では、教科書を使用して文章を作って発表したり、韓国語で歌を歌ったりして、楽しみながら韓国語を勉強することが出来ました。文化体験では、組紐でのキーホルダー作成、韓国料理体験など様々なことをしました。中でも韓国の国技であるテコンドーでは、筋肉

痛になりながらも、一生懸命蹴りの練習をして、最終テストでは、みんな見事に板を割ることができました。

また週末には、キャンプをしたり、私たちの御世話をしてくれた「トウミ」と呼ばれる学生と一緒に釜山にも行きました。山だったり都会だったり、色々な韓国を経験出来ました。寄宿舎でみんなと共同生活をする中で、韓国の学生と話をしたり、他の国から来た学生とも韓国語で話してみても友達になったりと、この研修ならではの体験もできました。文化の違いを実際に感じる事ができ、とても良い勉強になりました。

3週間の研修で、韓国語を学ぶことがより楽しくなり、ますます韓国について興味を持ちました。今まで体験したことのない、充実した3週間でした。この貴重な体験を胸に、私たちはこれからの学生生活をより充実したものになるように頑張りたいと思います。韓国で出会えた全ての人に感謝します。

チョンマル カムサハムニダ！！



(テコンドー)

看護栄養学部看護学科3年 成 俊浩

私は、海外語学・文化研修として韓国の慶南大学校で約3週間学んできました。在日韓国人である私にとって韓国は、自分の国でありながらわからないことも少なくありません。それ故に他の学生とは違った心持ちだったと思います。

幸いにも韓国語を話せる私は、韓国の学生たちと打ち解けるのにそう時間はかかりませんでした。勉強に遊びにお酒に… 日本では味わうことのできない充実した刺激的な毎日でした。また「グローバルハンマ」と呼ばれるこの研修は、韓国の学生に限らず世界8カ国から集まった74名の学生が参加しており、言葉や文化の違いを日々感じていました。時には言葉が通じずもどかしい思いをすることもありましたし、価値観の違いからこちらの想いが上手く伝わらないこともありました。しかし、共に過ごす中で少しずつ認め合い、お互いに理解し合うことができたように思います。彼らや彼女たちと過ごした時間は、何物にも代えられない私の宝物となりました。また、異文化と接することで日本の良さも改めて感じる事ができました。

短い期間ではありましたが、海外語学・文化研修で

得た学びは数知れません。また韓国で過ごしたこの期間は、在日韓国人として生きる自己の存在を見つめ直すいい機会になったと思います。

最後に、今回このような貴重な体験をする機会を与えてくださった山口県立大学学長をはじめとする教職員や関係者の皆様、そして我々を受け入れてくださった慶南大学校に心から感謝いたします。ありがとうございました。



(3週間一緒に過ごした世界各国のクラスメート)

◆ カナダでの語学・文化研修

国際文化学部国際文化学科2年 小野奈緒美

8月29日から9月21日までの3週間、カナダへの海外文化・語学研修に参加しました。去年の秋、その年に研修に参加した人たちの報告会に参加したことがきっかけでした。今回一緒に行ったメンバーは、私を含め海外に行くのはこれが初めてという学生も多かったため、国際線に乗るところから緊張の連続でした。約13時間のフライトは思ったほど長くは感じず、快適に過ごせました。カナダに滞在中は、月曜日から金曜日までビショップス大学で文法、発音、様々な言い回しなどの授業を受けました。毎週金曜日は、その週に学んだ内容から出題される試験と口頭発表がありました。最終週には、この研修の集大成として2グループに分かれ、カナダでの思い出を紹介するビデオを作りました。大きな期待と同時に、それと同じくらいの不安を胸にスタートした3週間の研修ですが、今振り返ってみると、本当にあつという間でした。毎日のクラス、週末の1日旅行、ホストファミリーと過ごす日曜日の1日1日がとても充実していて濃い時間を過ごすことができました。私の一番の思い出はホストファミリーと過ごした時間です。夕食後、一緒にゲームをしたり映画を見たり、たくさん私たちを楽しませてくれました。英語のスキルアップが一番の目的でしたが、それ以外にも得ることはたくさんありました。海外での生活を通して、様々なことを経験したことで、以前よりも積極的に行動できるようになったのではないかと自負しています。この3週間、本当に貴重な体験をさせていただきました。この研修を支えてくださった方、現地で私たちのお世話をしてくださったすべての

方、また引率をしてくださった副学長、副理事長に感謝します。



(授業風景)



(ホームステイ先にて)

2. 留学生と地域との交流の輪が広がっています

本年度実施している相互交流型の国際理解講座です。第1回目の周防大島での交流は前号で紹介しましたが、今回はその後の交流について報告します。

◆ 阿東町交流

第2回目の地域交流は、8月9日(日)、10日(月)に阿東町にある「社会福祉法人あんずの里 阿東老人ホーム」に、中国人留学生3名、韓国人留学生2名、日本人学生2名が伺いました。入居者やそのご家族、施設の職員の方々、そして地域の皆さんとともに交流を行いました。

1日目は、阿東老人ホームで年に一度開かれる夏祭りに参加しました。朝からお祭りの準備を職員の方々と共に行い、大鍋でカレーを作ったり、風船でバルーンアートを作成したりしました。留学生たちは、これまで参加するだけだったお祭りの裏方としての大変さを身にしみて感じたようでした。お祭りはあいにくの雨模様で、急遽室内での開催となりましたが、入居者やご家族の方々、地域の皆さんも多数参加され、小さな子どもたちから中高年の方々まで熱気に溢れかえり、大盛況となりました。特に、お祭りの最後を飾る正調の盆踊りは、郷土に伝わる物静かな節回しで行われ、先祖や初盆を迎えた方々に祈りを捧げるという伝統行事の重さを感じ取ることができました。

2日目は、中国、韓国の留学生たちが、自国の料理

を約80名の入居者と職員に食べていただくために、自慢の腕をふるいました。中国は、牛肉とトマト、キャベツ、キムチなどを一緒に煮込んだスープ「俺風独創 トマト煮」。韓国は、豚肉と様々な野菜を炒めてコチュジャンで味付けした「トゥルチギ」という料理を作りました。入居者に食べやすいように小さく切り、辛さも調節し、喜んでいただくことができました。施設長(柴崎基氏)、職員の方々に御礼申し上げます。

また、老人ホームでの交流会からの帰途、阿東町の特産品である梨農園で農業体験を行いました。農園の方から、おいしい梨の見分け方や実のちぎり方などを教えていただき、みずみずしい梨とともに近づいてくる秋の気配を楽しみました。



(阿東町の皆さんの前で県大をアピール)



(中国・韓国の料理を披露)

◆ 錦町交流

10月17日(土)、18日(日)の2日間、本学の留学生12名が岩国市錦町を訪れました。今回の錦町交流は、NPO法人錦川流域ネット(代表:白井啓二氏)のご協力により、充実した交流活動を行うことができました。心より感謝申し上げます。

1日目は、錦川清流線の車窓から自然豊かな風景と、とことトレインからトンネル内の幻想的な光る石のアートを楽しみました。また、交流の場となった「清流の郷」では、芋掘りや白菜の苗植え体験などを行い、農業体験に夢中で取り組みました。収穫した食べ物は、夜に行われた錦町の皆さんとの交流会用に調理しました。交流会では、ライオンズクラブや地元の青年など約15名の方々にご参加くださり、留学生も身振り手振りで会話を楽しみました。

2日目は寂地峡トレッキングを行いました。急な坂道や細い小道、行く手を阻む木の根っこに四苦八苦しながら歩を進めると、名水百選として名高い寂地川と五竜の滝が現れました。そこにたどりつくまでは少々大変でしたが、自然の生み出す美しさを目にした途端、一気に疲れが吹き飛びました。宇佐の樹齢900年の大杉からパワーをもらった後、錦町の婦人会の皆さんが、留学生にこんにゃく作りを伝授して下さいました。欧米圏から来日したばかりの留学生たちにとって、こんにゃくは初めて見る食べ物で、その原料が「芋」であることに驚いたようです。自分たちで作ったこんにゃくを婦人会の方々と一緒にお昼にいただいた後に、錦町の街ぐるみ博物館を散策しました。

留学生同志の仲間意識が深まる研修となり、また留学生にとっては日本文化や地域社会を知る貴重な体験となりました。「留学生との交流はいいね」とたくさんの方に言っていただき、留学生の地域派遣の手ごたえを感じることができました。



(旬の味覚さつまいも掘りに夢中)



(婦人会の方に教わりながら初めてのこんにゃく作り)



(錦町の皆さんと交流会)

◆ 俵山交流

11月13日・14日の2日間、長門市立俵山中学校に留学生5名と日本人学生3名が訪問しました。

1日目は、山口県の竹を有効利用する活動をされている「長門市どんぐりの会」の皆さんと長門市役所の方にご指導いただきながら、俵山中学校の生徒さんと竹を使ってご飯を炊く「ぼんぼら飯」を作りました。山口県は現在日本で3番目に広い竹林面積を有するそうです。慣れないのこぎりや鉋(なた)に悪戦苦闘しながら竹を加工して、お釜、お皿、湯飲み、しゃもじ、箸を作成しました。自分たちで作った容器を使って食べる「ぼんぼら飯」の味は格別で、竹の香りがそのおいしさをより一層引き立ててくれました。

中学生と一緒に給食を食べた後、落語鑑賞をしました。プロの噺家さんの高座の前に、俵山中学生による落語がありました。とても堂々としていて、プロ顔負けの噺に留学生一同驚いていました。

夜は、俵山地区のお宅にホームステイをさせていただきました。有名な温泉に連れて行って頂いたり、夜が更けるのを忘れて会話を楽しみ、思い出深い1日となりました。

2日目は、1年生・2年生の皆さんに、留学生がアメリカの歴史と文化についてスライドを交えて紹介しました。その後、アメリカの子どもたちが良く遊ぶゲームをしたり、グループに分かれてお互いの国のことなどを話し合いました。はじめは、緊張気味だった生徒さんも、お別れする時には笑顔があふれていました。

この交流をコーディネートして頂きました壱岐義一校長先生を始め、長門市立俵山中学校の皆様、ホームステイを快く引き受けて下さいました藤永様・花岡様、竹細工のご指導をくださった長門市どんぐりの会の皆様に心より御礼申し上げます。



(中学生と一緒にぼんぼら飯作りに挑戦)



(自国の歴史と文化について紹介)

3. 教員交流が進んでいます

◆ フィンランドで研修

ヨーロッパPTリーダー：井生 文隆

2009年8月21日～9月14日の期間、フィンランド国立ヘルシンキ芸術デザイン大学において、「豊かでサステイナブルな暮らしを実現する産学公連携教育」を課題として研修してきました。

フィンランドは、人材が大きな資源となっています。そのため教育は重要視され、教育レベルは世界的に高い評価を得ています。フィンランド経済を支えるのは、ノキアを代表とするIT連企業であり、そこにテクノロジー、マーケティング、デザインの人材を創出している国立の3大学、ヘルシンキ工科大学、ヘルシンキ経済大学、ヘルシンキ芸術デザイン大学が、2010年1月アアルト大学として統合します。国立大学数や予算の削減ということではなく、統合することにより、社会のニーズに合った革新的な大学を創出するという目的が非常に興味深く、多くの関係者にインタビューを行い、先行スタートしている機関を視察して多くの情報や知見を得ることが出来ました。

滞在中、交換留学を開始して2年目となるラップランド大学を訪問し、大学間の提携への発展の可能性について、今後の日程を協議し合意を得ることができました。

また、ヘルシンキ・フェアセンターにて開催されていた「Habitaré 09」を訪れ、TAKE Create Hagi社オリジナルブランド「magaru」のブースを視察しました。バイヤーなど多くの来場者があり、竹製成形合板家具の商品化をのぞむ声が多く聞かれ大盛況の様子でした。

前述のごとく、第1回滞在研修派遣という機会に恵まれ、3週間という日程でしたが、多くの成果を得て、今後の研究・教育活動等に還元すべく努めていきたいと考えています。



(講義風景)

◆ フィンランドで授業

国際文化学部文化創造学科：松尾 量子

10月19日より21日までの3日間、ラップランド大学美術学部において、「Tsutsumu Wrapping Culture in Japan」をテーマとした3日間の集中講義を行ってきま

した。受講生は23名で、グラフィック・デザイン、プロダクト・デザイン、美術教育などを専攻する学生でした。この中には昨年、ラップランド大学からの交換留学生として来学していたタンヤさんとペトリ君も含まれています。二人ともとても元気そうで、タンヤさんには授業の際にいろいろとお手伝いいただきました。

初日は10時から14時まで、間に昼休みをはさんで日本の包む文化についての講義を行いました。講義は日本語で行い、シャルコフ先生が通訳して下さるという形です。2日目は午前中に、風呂敷を使って実際にものを包むワークショップを行い、その後日本のきもの構造についての講義を行いました。午後は学生の自主学習時間なので、二つの課題を出しました。一つは、10分の1サイズの細長い反物状の紙を配布し、のりとはさみを使ってきもの形をつくるというものです。もう一つは、授業のまとめとしての「包む」という課題です。これは、65cm×65cmの雲竜紙を配布し、誰に何をどんな時に贈るのかを想定した上で、実際に包む作業を行うというものです。3日目は午前中に、学生による自主学習課題のプレゼンテーションと講評会を行い、3日間の集中講義が終了しました。

日本の文化やデザインについての関心は高く、最終日のプレゼンテーションには、パッケージデザインを研究している教員と学生10名程度の見学者がありました。半日という限られた時間の中で学生たちが取り組んだ包みの作品には、講義の中で取り上げた折形や風呂敷のデザイン、きもの構造などをヒントにしたものや、配布した雲竜紙を顔料と塩を使って彩色するなど専門分野での知識や技術をうまく生かしたのを見る事ができ、私にとっても有意義な経験となりました。



(風呂敷包みのワークショップ)



(学生によるプレゼンテーション)



(「包む」の課題作品を囲んで)

4. 国際化加速 GP フォーラムを開催しました。

11月14日(土)、6GP合同フォーラムに合わせて、国際化加速GP分科会を開催しました。英語で開講される科目の構造や、その中で山口から世界に発信する「やまぐち地域文化遺産スタディーズ」の試行などについてシャルコフ先生より報告を行い、今年の前期に試行した「文化交流遺産」と後期に試行中の「歴史遺産」に関する報告を、それぞれウィルソン先生、稲田先生が行いました。「山口ならではの」学びの展開とその成果の出し方について、文部科学省から参加いただいた高等教育局大学振興課・課長補佐(併)公立大学専門官の高見功氏にも納得いただけたようです。英語で開講される科目を担当する教員からは、授業の工夫や課題について提案がなされ、まとめたものを英語で開講される科目WGに提出しました。今後、改善に向けた検討が進むことを願っています。



(やまぐち地域遺産スタディーズの報告)



(活発な意見交換が行われました)

5. 交換留学・日本語 TA 帰国報告

帰国報告を1つずつ紹介します。その他の報告についてはホームページに掲載していますので、ご覧下さい。

◆ 交換留学を終えて

生活科学部9月卒業生 菅原 匠

この度、私はフィンランドのラップランド大学での10ヶ月におよぶ留学期間を終え、ここ山口県立大学に帰って来ました。この人生初の留学は、私の人生観、デザイン観に深い影響を与えたものであったと感じています。今回私は特に「幸せのかたちを探る」というテーマを掲げ、フィンランド人の生活や物事の捉え方の中に幸せの原点があるのではないかと考え、これから人生を考える上で、またモノを作っていく者として、学内外問わず動き回りながら探ってきました。その感じた中から、今回特に教育システムについて考察したいと思います。というのも、私自身以前から教育に興味を持っていたのですが、この度のフィンランド留学で「教育」というものの素晴らしさを痛感させられたからです。教育というのは、今回私が掲げたテーマの中核に存在していると考えていて、比較的若い世代への教育は、生涯的に見ても思考や行動に大きな影響を与えるものであるからです。特にフィンランドでは勉強を教えるというよりは、人生をサポートするような、あくまでも強制的でなく、手を差し伸べるようなところに重点をおいているように感じました。これが学びの本質ではないかと思います。ラップランド大学では企業や大学間の提携が盛んに行なわれ、学校側と企業側とのサイクルが非常にいい状態で回っているという印象を受けました。生徒側もより実践的に学べ、企業側が就職時に知っているのが就職もしやすくなり、さらには企業側も早い段階から育成可能になり、学生ならではの視点が聞けるなど非常によい形で機能していました。私自身も NOKIA との産業提携の授業を受講したり、友人はデザインしたものを職業訓練校に持って行き、試作品の制作をしてもらっていたり、実際にアイスホテルの建設に携わったりなど、大学と企業、そして地域がかなり密に繋がっていました。また、学生の年齢も日本であれば大抵の場合18~24歳くらいに収まっていますが、フィンランドは30歳くらいまでの人が普通に在籍しており、ベビーカーを押しながら学校に来ている方を見かけるのも少なくはなかったです。さらに、以前は他分野で活躍していた方が違う分野に興味を持ち、今はその分野を大学で勉強しているという方もいました。フィンランドの教育システムは年齢問わずに自分にあった職を見つける機会がしっかりと設けられていて、思う存分勉学に集中できる環境があり、また仕事面も自分に合わせるのではなく、自分に仕事を合わせていけるように社会全体がサポートしている印象でした。

やはり教育というのは強制ではなく、その人の性質を理解した上での手助けにあるのだと思います。その

点で見るとフィンランドはサポートの質が非常に高い。学びたいものにはそれに見合ったものを、また学校でない場所で光る人がいればそれに見合ったものを提供し、一人一人の存在を尊重していました。そこには生涯を通して個々が自由に羽を伸ばすことのできる環境があり、そこには楽しみがあります。この楽しみは仕事にも人生にも影響し、幸せを感じれるのだと思います。そして、知らず知らずのうちに家族や周囲の人にも幸せの風を送っているのでしょうか。この幸せの歯車が、個々人だけでなく社会全体でも回っていることが本当に素晴らしいのだと思います。それが北欧という過酷な自然の中で暮らす人々の生き方でした。そしてこれはデザインにも通じるものがあると思います。私自身、これからこれらのものをアウトプットしていく時期に来ます。まだまだ未熟者ですがしっかりと社会に、またこれからの人たちにいい歯車を回せたらと思います。

◆ 日本語 TA を終えて

国際文化学部 4 年 前原 望美

休学中、カナダ・ケベック州にあるビショップス大学で日本語教員アシスタントとして約 8 ヶ月間活動しました。指導教員である日沢勝則先生の下、授業をしたり、課外活動を計画、実行、運営しました。ビショップス大学には 1 年生から 3 年生までの 3 つのレベルの日本語クラスがあります。各クラスの授業時間の 3 分の 1、30 分を担当し、その授業で勉強した文法項目の応用練習、また学生の宿題、小テスト、試験の採点を担当しました。放課後に行われる日本語会話クラブでは、既習の文法項目を使って、日本人留学生と会話の練習ができる機会を作りました。また、日本語クラブでは、日本の年中行事の紹介、日本語を使ったゲームやカルタ、紙相撲など様々な日本の遊びをしました。その他にも日沢先生が運営していらっしゃるアカペラのグループでは、学生と一緒に「花」や「夏の思い出」などの歌を日本語で練習し、「テレビドラマのタベ」では毎週 1 話ずつ日本のテレビドラマを見ていました。

日沢先生は、学生との信頼関係を大切にしている先生なので、学校以外で学生と一緒に活動することが多く、登山や日本の映画観賞、日本食レストランでの食事会などさまざまな課外活動を行ってきました。こうした活動を通して作られた学生との関係は、授業をする際に役立ち、教師と学生の教室内でのやり取りが活発になったり、雰囲気も明るくなったりしました。さらに、日本に留学したい、日本に行きたいと考えている学生のために、日沢先生と一緒に説明会を開いたり、山口県立大学にビショップス大学から留学している学生が撮った写真やビデオを見せて、日本、県大を積極的にアピールしました。

長期にわたるアシスタント活動だからこそ学生の成長を少しずつ感じられるという嬉しさがありました。

課外活動や授業の準備で悩むことや苦勞することもありましたが、しかし、何事にも前向きに取り組み、何事も自分の出せる力を出してチャレンジをしてきました。アシスタント活動以外にも、フランス語を勉強する機会もありました。フランス語圏のケベック州は、英語圏のその他の場所とは異なった特有の雰囲気と文化があり、そこで約一年間過ごせたこともいい経験になりました。これからは、休学中の経験を大切に、活かせるような仕事を見つけないです。そして、これからも広い視野を持って物事を考えていきたいです。また、私が教えた学生が日本に留学や就職という形で来ることがとてもうれしく、再会できる日をとっても楽しみにしています。



(日本語を勉強する学生と一緒に記念撮影)

6. 2009 年度後期：短期留学生の紹介

2009 年度後期に留学してきた新しい学生を紹介します。キャンパス内で見かけたら、ぜひ声をかけてください。

| | 所属大学 | 学科 | 氏名 | 性別 | 国籍 | チューター |
|---|------------------------------|------|--------------------------------------|----|--------|------------------|
| 1 | 曲阜師範大学 | 国際文化 | 董書 トウ ショ | 女 | 中国 | H21.10 ～H22.9 |
| 2 | センター大学 | 国際文化 | Jessica Brownfield ジェシカ ブラウンフィールド | 女 | アメリカ | H21.10 ～H22.1 |
| 3 | | | David Carlson デビッド カールソン | 男 | | |
| 4 | | | Sara Mishu サラ ミシュ | 女 | | |
| 5 | | | James Ransdell ジェイムス ランスデル | 男 | | |
| 6 | ラップランド大学 | 国際文化 | Sofia Kari ソフィア カーリ | 女 | フィンランド | H21.10 ～H22.3 |
| 7 | Tytti Taipale ティッティ タイパーレ | 女 | | | | |
| 8 | ナバラ州立大学 | 文化創造 | Eduardo Moreno エドワード モレーノ | 男 | スペイン | H21.10 ～H22.9 |

7. ホームビジット・ホームステイをお願いしています

留学生に日本人家庭での生活を体験してもらうホームビジット・ホームステイに登録いただいたご家族に、この秋から留学生がお世話になっています。新しい制度のもとで、留学生全員が日本人家庭の雰囲気を楽しめるよう、事業を進めていきたいと思っています。

山口県立大学交換留学生 張馨月

私は8月10日に熊野さんに会いました。私は熊野さんの家に行く道が分からなかったのですが、熊野さんがとても親切に山口駅まで迎えに来てくださいました。私と熊野さんは一緒に公民館に行き、子育てサポートの準備をしました。時間になると、お母さんたちが子供を連れて来ました。一緒に水遊びをしたり、紙芝居を聞いたりなど子どものお世話をしました。とても楽しくて、私も子どもに戻ったような気分でした。その後、熊野さんの家に行って、一緒におにぎりを作り、ご飯を食べました。熊野さんはから揚げや野菜が多く入ったスープなどを用意してくださいました。スープは熊野さんが近所の人から教わったものを、私のために作ってくれました。帰る時にはおいしいケーキをいただきました。

9月28日、熊野さんは私をお茶会に連れて行って下さいました。初めて日本の茶道を体験してすごく感動しました。お茶会に参加する人は、全員着物を着ることが茶道の礼儀だということを学びました。茶道ではお菓子を食べた後にお茶を飲むのが礼儀とされていることも初めて知りました。このお茶会の体験を通して、私は茶道に興味を持つようになりました。今、学校で茶道の授業を取って勉強しています。日本文化の体験をさせて下さった熊野さんに本当に感謝しています。

また、いつかお会いできるのを楽しみにしています。

山口県立大学交換留学生 董書

10月31日に、私は新山口駅でホームビジット先の下史恵さんに会いました。下さんの家に行く電車の中で「下史恵さんのことを何と呼んだらいいですか」と聞いた時、「お母さんでいいよ」と答えてくれました。そういわれたとき、現在一人暮らしの私はとても温かく感じました。そのあとは、お母さんと、日本と中国の文化の違いについていろいろと話しました。日本に来る前には、日本の神社とお寺の違いがよくわからなかったのですが、そのことをお母さんに尋ねました。その違いをよりよくわからせるため、お母さんは私を宇部市の神社とお寺に連れて行ってくださいました。実際に行ってみて、お寺と神社を一番簡単に区別する方法は鳥居があるかないかということだと教えてくださいまし

た。それだけではなく、神社とお寺のそれぞれの文化と参拝方法なども詳しく教えてくれました。ずっと知らなかったことがよくわかりました。

日本に来て一ヶ月ぐらいいろち、日本の生活に少しずつ慣れてきましたが、今回のホームビジットのお母さんとの交流を通して、日本の家庭生活や日本の文化をより深く理解することができました。また、日本語を話す自信を持つことができ、日本人と自然に交流できるようになりました。

最後にこのような機会を与えてくださった大学に感謝します。

8. 今後の予定

◆ 11月24日(火)～26日(木)まで、曲阜師範大学より学術訪問団(荆兆助理事長、李效増院長、李海清国際交流処長)が来学されます。

◆ 12月8日(火)～13日(日)まで、センター大学より教員交流でミルトン・リーガルマン教授(学長特別補佐、国際教育プログラム長)が来学されます。

【講演日程】

・ 12月9日(水) 12:50 - 14:20 本館2階大会議室
「リベラルアーツとは - センター大学が大学ランキングで全米10位に入った理由」

・ 12月11日(金) 19:00 - 21:00 クリエイト・スペース赤れんが
「アメリカにおけるアイデンティティと文化：エマーソンからオバマへ」

◆ 12月9日(水)～11日(金)まで、青島大学より看護学部交流(姜振家附属病院長、董荷副院長)が来学されます。

◆ 留学生を地域に派遣する県内5カ所(1泊2日)での相互交流型国際理解講座の最後は、平成22年1月16日(土)、17日(日)に、宇部市のユネスコ協会との交流を予定しています。

山口県立大学国際化推進室 桜翔館2階
Tel(内線):083-928-3413 (3413)
email:kokusaika@yamaguchi-pu.ac.jp